

はじめに

学際科学実験センター長 柴 和弘

昨年7月より、学際科学実験センター長を務めさせて頂いています。前センター長の浅野教授が任期途中で京都大学に転出されましたので、急遽センター長を引き継ぐことになりました。まだまだ不慣れな点がありますが、学際科学実験センターの方向性をしっかり定め、発展のために力を尽くしていきたいと思っております。さて、学際科学実験センターの1年間の大きな動きとして、以下の二つがあげられます。一つは、アイソトープ総合研究施設の耐震改修工事が行われたことです。そのため、平成26年8月1日～平成27年7月15日までの約1年間施設が利用できない状態が続き、利用者の方々に多大な迷惑をおかけしました。この場をお借りしましてお詫び申し上げます。今回の改修工事により、*in vivo*動物イメージング室を新たに設け、小動物用SPECT/CT 2台と小動物用PET/CT 1台を設置することになりました。今後、遺伝子改変動物を用いた*in vivo*イメージング研究が進んでいくことが予想されます。それに向けて金沢大学でもようやく体制が整ったと考えております。また、学際科学実験センターでは、今後、遺伝子研究施設や実験動物研究施設の改修工事を進め、3つの施設を廊下で繋げることを目標に努力して行きたいと考えております。これにより、動物研究、遺伝子研究およびRI研究の最新技術を有機的に融合した新たな研究の推進・支援に力を入れていきたいと考えております。

二つ目は、遺伝子改変動物分野教授（実験動物研究施設長）として、大黒多希子教授を迎えることができたことです。遺伝子改変動物分野教授は実験動物研究施設長として、動物飼育・動物実験を円滑かつ安全に推進していくための施設管理運営を行う知識・経験を有し、遺伝子改変動物作製に関する知識・技術を有し、金沢大学における遺伝子改変動物作製等の研究支援を行うことが求められます。また、学際科学実験センターの教員配置計画に基づく主要研究課題「最先端技術の学際融合による分子～個体レベルでの疾患研究と診断・治療法の開発」の中心的役割を果たしていくことが求められます。大黒先生は長年米国で研究をされ、インパクトファクターの高い雑誌に数多くの研究成果を発表され、また米国で多額の研究費を獲得されてきました。日本と米国のそれぞれの動物実験環境についても詳しく、これからの遺伝子改変動物分野並びに実験動物研究施設のさらなる発展、さらには学際科学実験センターの発展に貢献して頂けるものと期待しています。

学際科学実験センターは学内共同教育研究施設の一つです。その中でも、動物実験、遺伝子実験、RI実験および機器分析を行う研究施設として、1000万円以上の高価な研究機器が数多くあります。それらの高価な機器を維持又は更新していくには多くの費用がかかります。残念ながら、現在の学際科学実験センターの予算では、施設の管理・運営が精一杯で、なかなか設備機器や研究機器の維持・更新が難しく、大変な危機感を持っております。利用者の方々には、大型設備機器や研究機器の更新の予算要求の際には是非ご協力くださるようお願いいたします。